日本医学会分科会活動報告

一般社団法人日本泌尿器科学会
理事長　野々村祝夫

Ⅰ．医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる本学会独自の活動

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

年 1 回開催する学術集会（日本泌尿器科学会総会）と東部、中部、西部地区で開催される地区総会における学術交流。

和文雑誌である「日本泌尿器科学会雑誌」の発行（年 4 回)。

英文雑誌である「International Journal of Urology (IJU)」の発行（年 12 回)。本誌はアジア泌尿器科学会の official journal であり、Impact Factor は 3.369 まで向上した。

英文雑誌である症例報告に特化した「IJU Case Reports」の発行（年 6 回)。

アメリカ、ヨーロッパ泌尿器科との joint session を、それぞれの学会会期中に開催し学術交流を図っている。

学会主導の調査研究を実施している（進行性腎細胞癌、去勢抵抗性前立腺癌)。

b. 当該領域における国際的な役割

アメリカ、ヨーロッパ泌尿器科学会と partnership を結び、exchange program (academic exchange program および resident exchange program)を設け、短期間の滞在ではあるが、お互いの若手泌尿器科医の国際性の向上を図っている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

これらの臨床的、基礎的な研究の推進は学問的な進歩をもたらし、ひいては医療・福祉の向上に繋がる。特筆すべきは、本邦へのロボット支援手術導入における当科の果たしてきた役割である。さらに、国産手術ロボットの開発・上市にも大きくコミットし、国策である国産医療機器開発というミッションにも大きく貢献した。

d. 学会運営上留意している点

本学会所属会員に対して、平等に有益な最新情報を学術集会やホームページを用いて提供する。臨床的、学問的に質の高い泌尿器科医を育成できるような学術プログラムの考案や教育コンテンツの提供を行う。男女分け隔て無く、学会運営に携わって頂く。

Ⅱ．日本医学会分科会に相応しいと考えられる、日本泌尿器科学会と他の分科会との連携による活動

日本泌尿器内視鏡学会、日本内視鏡外科学会、日本内分泌外科学会、日本生殖医学会とはお互いの学術集会において、それぞれの学会から適切な演者、座長を選任し、お互いの学会の学術交流を図っている。